平成30年度日本語指導研究推進事業

実践報告資料集

兵庫県教育委員会

目次

１　芦屋市立浜風小学校　　・・・　１

２　三木市立自由が丘小学校　・・・　７

３　姫路市立東小学校　　・・・１４

平成 30 年度　日本語指導研究推進事業　実践報告資料

［学校名：芦屋市立浜風小学校］

【具体的な研究テーマ】
学習言語の定着

1　教科：単元名
算数：直方体と立方体

2　実施日（時期）	3　実施場所
平成 31 年２月 12 日（火）	学びルーム

4　児童・生徒の実態に応じたねらい

(1) 児童の様子･･･学年・国籍、学習状況、日本語習得状況など

・学年…4 年生（3 年生の 10 月上旬ブラジルから本校へ編入）

・母語…ポルトガル語

・日本語指導…国語は別室において、リライト教材を使用して、基本的な語彙力や日本語表現を学習している。他教科の先行学習や理解が不十分な内容の復習もしている。放課後は週 3 日、読書、テーマトーク、作文の学習をして、基本的な日本語能力を高めている。在籍学級では、教師の話はある程度つかむことができるが、詳細は理解できていないので、一人で問題を解いたり文章を書いたりすることは難しい。教師の支援を得て、学習課題を終えることができる状態である。

・日本語習得状況…ある程度の日常会話ができるが、物の名前など知らない語彙は多い。(DLA による日本語語彙力チェック 70%）2 年生程度の物語や説明文を読んで大意をつかむことができる。誤字脱字が多いが、400 字程度の作文が書くことができる。

(2) 日本語指導にかかる目標

①学習言語（立方体、直方体、囲まれている、見取図、展開図など）を理解する。

②直方体や立方体の構成の説明ができる。

「直方体は、長方形や正方形にかこまれている。頂点は８つで、辺は 12 である。同じ形の面が向かい合っている。」

「立方体は、全部　正方形でかこまれている。頂点は８つで、辺は 12 である。」

③ものの位置を表すことができる。

(3) 主な学習活動

①直方体と立方体の特徴を見つける。

②見取図と展開図をかく。

③直方体や立方体の中の垂直・平行関係を見つける。

④ものの位置を表す。

5　評価の観点
指導案に記載

6　指導内容の概要（※指導案別途添付）

（１）直方体と立方体の特徴を見つけさせる。

（２）問題を読んで意味を理解し、見取図や展開図をかかせる。

（３）直方体や立方体の中の垂直・平行関係を見つけさせる。

（４）方向を示す言葉を理解させ、ものの位置を表させる。

7　指導内容・方法において工夫したところ

（１）児童の長所（視覚優位、会話好き）を生かした学習活動

（２）学習言語の定着につながるように、学習過程に学習言語の使用頻度を高める。

①教師の説明の中で学習言語を聞く。
②ノートやワークシートに学習言語を書く。
③問題文にある学習言語を読んで課題を理解する。
④分かったことを話す際に学習言語を使わせる。
（３）学習言語カードを作り、短時間で復習できるようにする。

８　教材・教具
様々な箱、ワークシート、復習カード

９　活動の様子（写真等）
学習課題はすぐ理解でき、自分から進んで直方体の展開図をかこうとしたが、方眼紙に底の面をかいたところで、どうしたらよいか困っていた。そこで、実際に底の面にプレゼントをするものを置いて、どの面をどこにかいたらよいか考えるヒントにした。さらに、見本の直方体を置き、出来上がりを可視化することで、底の面と側面４つをかくことができた。出来上がってくると、本当にできたか切って確かめたくなったようで、「紙を切って作っていいですか。」と質問をした。切って作るとふたの面がなく、後１面必要だと気づき、直方体の展開図を完成することができた。

10　児童・生徒の感想等
はこのてん開図をかくは、たのしいです。むずかしいけど、切ってつくると（正しい）てん開図ができました。わかったことは、てん開図は、はこを切って開いた図です。ふたをわすれたから、気をつけたいです。

11　日本語能力測定方法と評価（ＤＬＡの活用）
ＤＬＡによる日本語能力測定は、４月、９月、１月の年３回実施した。児童の集中力に配慮して複数回に分けて測定した。測定による評価をすることで児童の日本語能力の実態と伸びを知り、日本語指導を効果的に行う指標として活用した。

12　実践をとおしての成果
（１）提示するものを工夫することで、日本語に翻弄されることなく学習内容に集中できた。辺は数え棒、頂点はシール、面は紙で可視化した。今回は、長方形だけで囲まれている直方体、長方形と正方形で囲まれている直方体などを、学習内容に合わせてさまざまな立体を提示すること、提示するタイミングを見極めることで混乱なく理解ができた。
（２）学習過程に学習言語の使用頻度を増やすと、学習言語の定着につながった。日頃は問題文を読む際に学習言語を音読できなかったり、問題の意味がつかめなかったりするが、丁寧に学習言語を積み上げることで、つまずきが少なくスムーズに学習できた。
（３）学習カードは、毎時間使用した。児童は自分がどの程度覚えたのか確認できるので、進んで復習に使っていた。日に日に学習言語を覚え、児童にとって学習を積み上げる励みになった。

13　今後の課題
・教師の平易な言葉から教科書で説明されている言葉へつなげることができなかった。学習につまずいたとき、教科書を読んでもただの音読になってしまうことが多い。よって、宿題でわからなかったときに、最後までやり遂げずあきらめてしまっていた。
・練習問題を解く時間の確保である。授業では、体験的な活動を重視すると、練習問題を解く時間は十分に取れない。宿題の量が増えてしまった。
・学習が単元で完結してしまい、次の関連した学習につながりにくい。一つの単元が終わるころには、単元の中に出てくる学習言語を使って説明したり、問題を読んで答えたりすることはできる。今回の「直方体と立方体」では既習内容だった「平行」「すい直」をもう一度学習し直す必要があった。5 年生の「体積」や「角柱と円柱」の学習に入るときに、どれくらい学習言語が残って学習を始められるかを確かめ今回の学習の手立てが効果的だったのか見直す必要がある。

第４学年　算数科(日本語)学習指導案

指導者　西馬　由華

１　対象　第４学年１組　　１名

２　日時　平成 31 年 2 月 12 日（火）第５校時　　13:45～14:30

３　場所　学びルーム

４　単元名

教材名　直方体と立方体　（算数４年下　啓林館）

５　指導にあたって

（１）児童について

3 年生の 10 月に編入し、日本語で 2 年生のかけ算から学習を積み重ねてきた。現在、教師や友だちの話を大まかに理解できる。算数では、基本的な計算はできるものの、日本語や学習言語が壁となり文章題を解いたり考えを説明したりできない。そのため、在籍学級で学習を進めつつ、先行学習や復習が欠かせない。

児童は、3 年生での編入のため、箱の形について 6 つの面でできていることは理解していない。4 年生の垂直・平行の定義はある程度理解したが、垂直、平行など学習言語は定着していない。線、点、角、三角、四角についてはきちんと理解できている。よって、立体を観察したり構成したり分解したりする活動を通して、学習言語をきちんと理解する必要がある。

（２）教材について

本単元は、直方体や立方体を観察したり構成したり分解したりなど作業的な活動を通して、立体の見方や感覚をもつことができる教材である。

第１小単元では、直方体、立方体の定義に続き、見取図や展開図を学習する。見取図は面や辺の平行・垂直関係の把握に便利であり、5 年生の体積、角柱と円柱の学習へつながる内容である。

第 2 小単元では、直方体の中の垂直・平行の関係を取り扱う。面と面、辺と辺、面と辺の 3 つの場合に分けて学習を積み、直方体における面と辺の関係をとらえられるようになっており、この内容は中学校の空間図形につながっていく。

第 3 小単元では、ものの位置の表し方を学習する。地図という日常的な素材を使って、平面から空間へと学習できるようになっている。

（３）指導にあたって

児童は頭の中で立体的に認知することが苦手である。そこで、さまざまな具体的な操作活動を取り入れ可視化することで確かな理解へとつなげる。その場では理解したものの、「直方体」「立方体」など新しい学習言語は定着が難しいだろう。手軽に復習できるようにカードを作成し、教師が横についていなくても、自分で復習したり定着度を測ったりできるようにする。

また、無理なく学習言語を定着させるために、学習言語を段階的に取り扱う。まず、教師が意図的に学習言語を使い、児童は聞いて耳から慣れるようにする。次に、児童が習った学習言語を使って答える場を設ける。そして、学習言語を使って話したり書いたりする場を繰り返して自然に使えるようにしたい。

本時では、展開図をかく学習活動である。展開図は算数以外で使う場面がなく、用語も図のかき方も児童にとって断片的な学習になってしまう可能性がある。そこで、児童が日ごろ折り紙で手作りプレゼントを作っていることを活用し、プレゼントを入れる箱づくりを学習目的にすることで、直方体と展開図を相互に考えながら進める活動を意図的に入れる。意欲的に学習できるだろうし、

どんな面をどこにかけば作りたい直方体になるのか考えるので、印象に残り学習の定着への一歩になるであろう。プレゼントは縦長で直方体をつくる活動へと誘う。児童には底の面を１番にかかせ考えやすくしたい。おそらく面の大きさや面の数を間違うだろう。児童には「～を作りたいけど、困っています。どうしたらいいですか。」など自分なりに考えて教師にどうしてほしいか伝える練習の場面にする。そして、本時の学習を経て展開図とはどんなものか説明できるようにさせたい。

6　単元目標

（1）直方体や立方体に関心をもち、進んで性質を調べようとする。【関心・意欲・態度】

（2）直方体や立方体を点、線、面の構成要素から性質を考えたり、直線や平面の垂直・平行の位置関係をとらえたりすることができる。【数学的な考え方】

（3）直方体や立方体の構成要素や位置関係をとらえ、見取図や展開図をかくことができる。【技能】

（4）直方体や立方体の定義や性質がわかる。また、平面や空間の位置関係および位置の表し方がわかる。【知識・理解】

〈日本語指導の目標〉

・頂点、辺、面の言葉を使って、直方体と立方体の違いを表すことができる。

・たて、横、高さの言葉を使って、見取図や展開図の書き方を説明することができる。

・問題に沿って、平面や空間の位置関係および位置を表すことができる。

7　単元評価規準

（1）直方体や立方体に関心をもち、進んで性質を調べようとする。【関心・意欲・態度】

（2）直方体や立方体を点、線、面の構成要素から性質を考えたり、直線や平面の垂直・平行の位置関係をとらえたりすることができる。【数学的な考え方】

（3）直方体や立方体の構成要素や位置関係をとらえ、見取図や展開図をかくことができる。【技能】

（4）直方体や立方体の定義や性質がわかる。また、平面や空間の位置関係および位置の表し方がわかる。【知識・理解】

8　単元指導計画

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
一 直方体と立方体	1	○2 種類の箱を使って同じところ、ちがうところを見つける。	・面に注目させ、違いから特徴を理解させる。	・面の形に着目し、同じところ違うところが説明できる。【考】
	2	○ひごと粘土玉を使って箱を調べ、直方体と立方体の用語を理解する。	・ひご＝辺、粘土玉＝頂点として、意識させる。	・直方体と立方体の用語の意味を理解している。【知】
	3	○見取図の書き方を理解する。	・平行、等しい長さを意識させる。	・見取図をかくことができる。【技】
	4	○直方体のてん開図を書く。	・切り開いた箱を活用して同じ形の面がどこにあるか考えさせ、特徴をつか	・展開図を組み立てたときに重なる辺や頂点を考え、展開図が書く
	5	○立方体のてん開図をか		

		く。	ませる。	ことができる。【考・技】
二 面や辺の平行と垂直	6 7 8	○直方体において、面と面の関係を調べる。 ○直方体において、辺と辺の関係を調べる。 ○直方体において、面と辺の関係を調べる。	・下敷きを使って、可視化による理解の定着につなげる。 ・鉛筆を使って、可視化による理解の定着につなげる。 ・下敷きと鉛筆を使って、可視化による理解の定着につなげる。	・面と面の平行や垂直の関係を理解している。【知】 ・辺と辺の平行や垂直の関係を理解している。【知】 ・面と辺の平行や垂直の関係を理解している。【知】
三 位置の表し方	9 10	○平面にあるものの位置の表し方を理解する。 ○空間にあるものの位置の表し方を理解する。	・図を活用して、２つの数の組で表すことができるようにする。 ・立体を活用して、３つの数の組で表すことができるようにする。	・平面上の位置を表すことができる。【技】 ・空間の位置を表すことができる。【技】

9　本時目標

辺の長さに注意しながら、直方体の展開図をかくことができる。

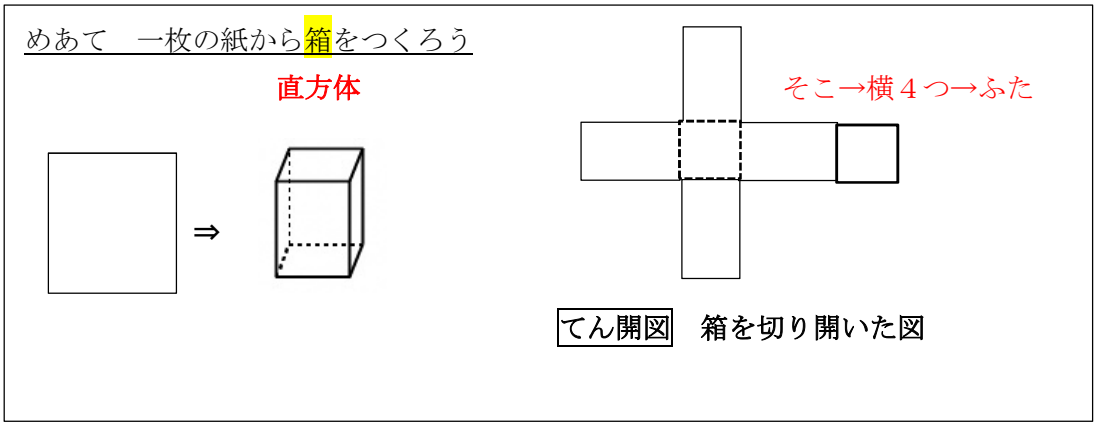
〈日本語の目標〉「展開図は、箱を切り開いてかいた図です。」など、展開図の説明ができる。

10　本時展開

過程	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
導入	1　本時の学習課題を確認する。	・プレゼントを入れるための箱を作るという学習目的を理解させる。	
	一枚の紙から箱をつくろう。		
展開	2　箱のサイズを決める。	・プレゼントの大きさを調べさせ、たて・横・高さの復習にする。	
	3　見本の箱を切り開かせ、展開図の構造を知る。	・同じ長方形がどこにあるか、組み立てたときに重なる辺や頂点に着目させ、展開図と直方体をつなげながら理解できるようにする。	・展開図を組み立てたときに重なる辺や頂点を言うことができる。【考】（発言）
	4　展開図をかき、箱を作る。	・児童が困ったときは、切り開いた見本の箱を見させる。	・直方体の展開図をかくことができる。【技】（工作用紙）

まとめ	5　展開図の説明をする。 6　ふりかえりを行う。	・児童が困ったときは、「切る」「開く」「図」を実態に合わせてヒントを出す。 ・児童なりの表現は認めながら、正しい文法を教える。 ・展開図の用語や展開図のかき方など、わかったことを発表させる。	

11 板書



平成 30 年度　日本語指導研究推進事業　実践報告資料

［学校名：　三木市立自由が丘小学校］

【具体的な研究テーマ】
外国人児童の自己実現を支援する効果的な日本語指導のあり方について

１　教科：単元名 **国語　すがたをかえる大豆**	
２　実施日（時期） **平成３０年１２月１１日（火）**	３　実施場所 **日本語教室**

４　児童・生徒の実態に応じたねらい

(1) 児童の様子･･･学年・国籍、学習状況、日本語習得状況など

・学年・・・・・・・第３学年　２名

・国籍（母語）・・・シリア（ポルトガル語）

・来日年月日・・・・(O 児）平成 28 年２月
(G 児）平成 27 年 12 月

・日本語習得状況・・DLA 結果より（4 月実施）
(O 児)「話す」ステージ３
「読む」ステージ３
「書く」ステージ２
(G 児)「話す」ステージ２
「読む」ステージ２
「書く」ステージ１

・母語の習得状況・・(O 児）日常会話ができる程度の生活言語は身についている。しかし、就学前に来日しているため、学習言語はほとんど習得していない。
(G 児）日常会話ができる程度の生活言語は身についている。しかし、就学前に来日しているため、使用頻度の少ない生活言語は覚えていない。母語での学習言語はほとんど習得していない。

・学習状況・・・・・週に３時間取り出し指導を、週に３時間入り込み指導を行っている。日本語の学習に対して意欲的であり、課題等についてもきちんと取り組んでいる。

(2) 目標

①目標（国語科）

・大豆の工夫について、リライト教科書から読み取り、写真を使って説明することができる。

②日本語の目標

・「大豆を～すると、〇〇になります。」という表現を使って、大豆の工夫について説明できる。
「大豆をいると、豆まきにつかう豆になります。」

ターゲットセンテンス

・「大豆を～すると、〇〇になります。」を使って、考えましょう。

(3) 主な学習活動

・リライト教科書を音読する。

・大豆の工夫について、文中から読み取り、説明する。

5　評価の観点（※指導案に記載している場合は不要）

6　指導内容の概要（※指導案別途添付）

7　指導内容・方法において工夫したところ

・文字だけでは、実際の行動や物等と結びつけて覚えることができないので、実物や絵カードを活用し、視覚的な支援を行った。
・教科書の内容が難しく感じると予想したため、リライト教科書を作り、音読支援や説明文の大意をつかませるために活用した。
・学習に流れを作るため、「読む」「話す」「書く」「聞く」の活動を取り入れた。
・大豆の工夫について説明する文を考える際、はじめに一つ例を示すことで、他の食品の工夫についても考えやすくした。

8　教材・教具

・リライト教科書（自作）　　・ワークシート
・大豆がすがたをかえた食品の絵、写真

9　活動の様子（写真等）や児童・生徒の感想等

・いっぱい発表できた。
・（解答欄）に入る言葉を考えるのが難しかった。
・たくさんの先生の前で勉強するのがドキドキした。
・前に出て発表できてうれしかった。

大豆がすがたをかえた食品の名前もクイズ形式で楽しく覚えることができていたため、自信をもって発表する姿が見られた。また、教室掲示も活用しながら、発表できていた。

10　日本語能力測定方法と評価（ＤＬＡの活用）

昨年度から、ＤＬＡによる日本語能力測定を行っている。基本的に年間２回（１学期と３学期）実施し、対象児童の日本語能力の伸びを図るとともに、効果的な日本語指導を研究するために参考として活用している。

初期指導対象の児童には、「はじめの一歩」「話す」を、それ以外の児童には、日本語の習得度に合わせて、「話す」「読む」「書く」を実施し、児童の実態を把握して、取り出しによる日本語指導の学習計画を作成している。また、児童の日本語の習得の様子や在籍学級の学習の進度などを考えながら、取り出し指導や入り込み指導などの指導形態や、日本語基礎や補充学習、先行学習などの学習内容の見直しを適宜行った。

また、来日初期の児童には、子ども多文化共生サポーターにお願いし、母語でのＤＬＡを実施した。母語の習得度や母国での学習状況が把握でき、児童の背景を知ることで、より児童に寄り添った日本語指導ができるようになった。

11　実践をとおしての成果

⑴　ＤＬＡ（外国人児童生徒のためのＪＳＬ対話型アセスメント）について

ＤＬＡを実施することで、以前よりも児童の日本語の習得状況をつかむことができた。児童の日本語に対する強みや弱みもわかるため、指導方法や指導形態を考えることができた。

また、ＤＬＡを年度初めと年度終わりに実施することで、支援する側が児童の日本語能力の伸びを確認することができた。また、児童自身も、「前よりもわかる」という実感を得ることができ、自信が深まっている。

指導者は DLA の実施が 2 年目となり、実施方法や評価方法のポイントがわかってきた。児童の母国での経験や家庭環境なども把握できるため、より児童の実態に即した支援方法の工夫ができた。

⑵　取り出しによる日本語指導について

児童が、在籍学級で友だちと一緒に遊んだり、学習したりして、自己実現を図ることができるような日本語指導になるように心がけて指導することができた。

取り出しによって指導した内容については、記録してファイリングを行い、日本語指導の対象児童が在籍する学級担任や、日本語指導支援員と情報共有するようにしている。また、取り出しで授業を行うことで、在籍学級での授業の先行学習を行うこともできた。

他にも、個別に取り出して日本語指導を行うことにより、児童は落ち着いた環境で集中して授業に取り組むことができた。また、毎日、日本語教室からの宿題を出すことによって、漢字や計算などの日本語基礎、教科書の音読等、少しずつではあるが、確実に日本語が定着してきている。また、児童の言語能力を高めるために日本語指導研究推進委員会を毎月開催して、指導方法や児童の状況について情報共有が図られ、在籍学級担任を含めた組織的な指導ができている。

12　今後の課題

・今年度は、昨年度の課題を受け、児童を複数で取り出し、授業をする形態が中心であった。児童は、「今日は誰が来るの。」と友だちと学習できることを楽しみに日本語教室に来室するようになった。児童同士で学び合う姿が見られ、互いに刺激を受けながら授業に取り組めていた。しかし、異学年取り出しでは、同時に在籍学級の先行学習を行うことが難しい。来年度は、可能な限り同学年取り出しを実施できるよう、特別の教育課程を編成する際に、学校全体の教育課程を踏まえて考えていく。また、クラス編成や学級の時間割など、今年度以上に在籍学級の担任と連携し、児童の自己実現を支援する効果的な日本語指導が行える体制や環境を整備していく。

・今年度は、昨年度に比べて、休み時間の来室者が多かった。毎日宿題の直しをするた

めに来る児童もいれば、語彙を増やしたり漢字を覚えたりするためにカードで練習する児童もいた。しかし、中には友だちとのトラブルや学習の悩みを相談するために来る児童もいた。来年度も、日本語教室が学習支援の場だけでなく、児童の心の支えとなる場でもあるように、日本語や母国に関連する掲示物や教材を揃え、さらなる教室環境整備に力を入れていく。

・日本語指導研究推進委員会において、対象児童の情報共有等を行ってきたが、ＤＬＡの活用や新しく編入してきた児童に対する対応等で、在籍学級の担任と情報交換することが不十分な部分があった。来年度は、日本語指導研究推進委員会の開催方法を見直したり、職員室内での教員同士の情報交換等を密にしたりして、在籍学級との交流、対象児童生徒に対する共通理解を深め、学校全体で継続的、系統的な指導にしていく。

・日本語指導に関する専門的な知識・技術の研修が、担当者だけにならないよう、来年度も継続して外部講師による校内研修を実施し、対象児童の理解及び効果的な日本語指導について研修を深める。その際、ＤＬＡの活用方法について研修をすることで、生活言語・学習言語の習得方法について理解を深め、指導力の向上を図っていく。

・今年度は日本語教室の様子をホームページで発信した。しかし、発信できた回数は多くない。来年度は、発信する回数を増やし、保護者や地域の方々に、多文化共生教育や日本語指導に対する関心や理解をさらに高めていけるようにしていく。

・来年度も継続して、三木市教育委員会や三木市国際交流協会、大学等の関係機関とも連携を深めるとともに、日本語指導が必要な児童生徒が在籍する他の学校とも連絡会や研修等で交流を図り、本校での研究の成果を市内全体に発信していく。

第３学年　日本語指導（JSL 国語科）学習指導案

日時　平成 30 年 12 月 11 日（火）５校時
場所　三木市立自由が丘小学校　日本語指導教室
指導者　京極　実香子

１　単元・教材名　　「すがたをかえる大豆」（光村図書）
２　対象児童について
　３年　O 児（９歳）
　３年　G 児（９歳）

	児童をとりまく環境・背景	日本語習得状況（DLA）	学習に関する力
O	【シリア国籍】 ・H28 年３月 　来日 ・H28 年４月 　入学 （半年間県外に転出期間あり） ・家庭内言語は 　アラビア語	（DLA）H30 年４月実施 自己紹介　　100% 語彙カード　　47% ＜話す＞ ステージ　３ ＜読む＞ ステージ　３ ＜書く＞ ステージ　２	・学習に対して前向きであるが、周りが気になり集中して取り組むことが苦手である。字を書くことが雑で、漢字の定着もしにくい。 ・教科に関する指示はある程度理解できるが、学年相当の学習言語の理解が難しくなってきた。 ・自分の考えや思いを話せるようになってきたが、語彙が少なく、助詞が抜けた表現が多い。 ・音読は文節読みができるようになり、説明文や物語文では支援を得ながら、大意がつかめるようになってきた。 ・１、２年の漢字の読み書きはある程度できる。 声をかけると丁寧な字が書けるが、なかなか続かないため、学習が定着しにくい。
G	【シリア国籍】 ・H28 年 12 月 　来日 ・就学前 3 か月 　幼稚園在園 ・H28 年４月 　入学 ・家庭内言語は 　アラビア語	（DLA）H30 年４月実施 自己紹介　　100% 語彙カード　　40% ＜話す＞ ステージ　２ ＜読む＞ ステージ　２ ＜書く＞ ステージ　１	・学習に対してとても前向きに取り組む。学習内容によっては一人で集中して取り組めることも多い。 ・教科に関する指示はあまり理解できないため、周りを見て動いている。わからない学習言語が多いため、個別の声掛けが必要である。 ・自分の考えや思いを伝えるのが難しく、単文で話すことが多い。 ・音読は文節で読めることが増えたが、説明文や物語文の大意をつかむことは難しい。 ・１、２年の漢字の読み書きはある程度できる。いつも丁寧な字を意識して書けるため、時間はかかるが、漢字は定着してきた。

３　単元設定の理由

Ｏ児、Ｇ児ともに特別の教育課程を編成して、取り出し指導を受けるのは２年目である。日本語指導教室での学習をとても楽しみにしてやってくる。今年度は、児童の意欲を引き出すための新しい取り組みとして、カードを使った「大作戦」活動を始めた。語彙を増やすための「単語カードおぼえよう大作戦」と、わかる漢字を増やすための「漢字カードおぼえよう大作戦」である。すると、「日本語が上手になりたい」「たくさん新しいことばを覚えたい」「漢字が書けるようになりたい」という児童の思いや願いが強くなり、自ら休み時間やすきま時間を見つけて、宿題直しやカードの練習、テストにも来室するようになった。また、同学年取り出しをするようになり、教え合いながら、時には競いながら、学び合う姿が見られるようになってきた。ただし、取り出し指導だけで満足してはいけない。在籍学級でも活躍できる児童に育てていくために、算数では入り込み指導も行っている。支援を得ながら理解を深め、発表する機会も増えてきた。国語については、２学期より先行取り出しで教科指導型日本語指導を少しずつ取り入れ、在籍学級での学びへとつなぐ学習活動を始めたところである。

本単元の「すがたをかえる大豆」は、大豆をおいしく食べるための工夫を５つの例で説明している典型的な解説型の説明文である。児童にとって、見たことがある、食べたことがある身近な食品が扱われているため、それほど大きな抵抗もなく学習を始められると考える。また、事例ごとに写真と文章が対応しているので、視覚支援を得ながら、読み進めることができる。そのため、生活言語や学習言語の習得が十分でない児童にとっても適した教材だと考える。しかし、食品名や大豆の加工の事例の実際について、また本単元に必要な学習言語など知らないことも多い。そこで、在籍学級での学習の前にリライト教科書を活用して先行学習を行う。

在籍学級の本単元の終末は、筆者の工夫を活かして、オリジナルの説明文「すがたをかえる〇〇（米、麦、とうもろこし、牛乳、魚、いも）」を書くことである。先行取り出しでは、まず導入で大豆からできた食品を写真ではなく実物を見せることで視覚的に捉えさせ、見る、触る、嗅ぐなどの五感を使った体験活動を通して印象づける。次に、「炒る」「煮る」「粉にする」「栄養を取り出す」「小さな生物の力をくわえる」「取り入れ時期や育て方をかえる」という５つの工夫について、絵や写真を見たり、動作化したりすることで、イメージを膨らませたい。その上で、本時では、リライト教科書から、大豆の工夫を表す叙述を探し出し、定型文を考えさせる。その際に、ターゲットセンテンスを使って声をかけ、自信をもって説明できるよう、ワークシートに書かせる。先行学習での学びが在籍学級での学習へとつながり、自信をもってオリジナルの説明文が書けるようになることを期待したい。

４　単元指導目標

・文章の内容に関心をもち、工夫についての説明を考えることができる。【関】
・中心となる文や大事な言葉に気をつけて、音読できる。【読】
・工夫を説明する表現を考え、ワークシートに書くことができる。【書】

５　単元の評価規準

関心・意欲・態度	読むこと	書くこと
・文章の内容に関心をもち、工夫についての説明を考えようとしている。	・リライト教科書を読んで、文章の大まかな内容を捉えている。 ・中心となる文や大事な言葉に気をつけて、音読している。	・工夫について書かれている文に着目し、説明する文が書ける。

６　単元計画（全２時間）

時	学習活動	指導上の留意点	評価
１	○本単元の見通しをもつ。 ・大豆を加工した食品に出し合う。 ・範読を聞き、音読の練習をする。 ・学習計画を立てる。	・実際に大豆を加工した食品や写真などを提示することで、大豆についてのイメージをもたせる。 ・補足読みにより、言葉の意味を確認させる。 ・「すがたをかえる○○」を書くことを知らせる。	【関】大豆がさまざまな食品になることを知り、文章の大まかな内容を捉えようとしている。
２ 本 時	・音読する。 ・大豆の工夫について、文中から読み取り、説明する。	・ターゲットセンテンスを提示し、どのような工夫で、食品ができているのかについて、説明させる。	【読】大豆の工夫が書かれた文に気をつけて読んでいる。 【書】大豆の工夫について説明する文を書いている。

７　本時の目標（2 時間目）

（１）目標（国語科）

・大豆の工夫について、リライト教科書から読み取り、写真を使って説明することができる。

（２）日本語の目標

・「大豆を～すると、○○になります。」という表現を使って、大豆の工夫について説明できる。

「大豆をいると、豆まきにつかう豆になります。」

ターゲットセンテンス

・「大豆を～すると、○○になります。」を使って、考えましょう。

（３）本時の展開

学習活動	指導上の留意点	評価
１　本時の学習課題を知る。	・絵や写真を用いて前時の学習をふりかえり、食品名や大事な言葉を思い出させる。【記憶支援】 ・本時の活動の見通しをもたせる。【情意支援】	
大豆のくふうについてせつ明する文を考えよう		
２　リライト教科書を音読する。	・大豆の工夫が書かれた文に気をつけて読むよう促す。【理解支援】 ・「くふう」の意味について確認する。【記憶支援】	◎大豆の工夫が書かれた文に気をつけて読んでいる。 【読】（音読）
３　大豆の工夫について説明する文を考える。	・例を示すことで、他の食品の工夫についても考えやすくする。【表現支援】 ・ワークシートに書くことで、考えたことを整理させる。【表現支援】	◎大豆の工夫について説明する文を書いている。 【書】 （ワークシート）
４　考えた文を発表する。	・異なる意見が出てもどちらも意欲を認め、どちらの文がより良いか考えるよう促す。【理解支援】	
５　ふりかえりをする。	・本時の学習をふりかえり、次時の学習へとつなげる。【情意支援】	

平成 30 年度　日本語指導研究推進事業　実践報告資料

［学校名：姫路市立東小学校］

【具体的な研究テーマ】前向きに伝えあい、新たな価値を創造する子を育てる
～すべての子どもが「わかる」授業づくりを目指して～

1　教科：単元名 算数科：もとの数はいくつ	
2　実施日（時期） 平成 30 年 11 月 6 日（火）	3　実施場所 ワールドルーム（取り出し教室）

4　児童・生徒の実態に応じたねらい

(1) 児童の様子･･･学年・国籍、学習状況、日本語習得状況など

4 年生

A 児：ベトナム国籍

日本生まれだが、幼少期にベトナムの祖父母宅に預けられていた。小学校入学前に来日した。家庭ではベトナム語で生活しているため、日本語に触れるのは、学校だけである。話し方が速かったり、難しい言葉を使ったりしていると理解できない。

算数では、四則計算は身についており、速く計算できるようになってきた。文章問題では、言葉や尋ねられていること（日本語の意味）がわからず、立式できないことがある。説明を聞くと、一人で解くことができる。

B 児：ベトナム国籍

日本生まれ、日本育ちである。家庭では日本語とベトナム語で生活している。日常会話はよく理解している。日本語で自分の考えや思いを表現することは苦手である。

算数では、四則計算は正確にできるようになってきた。理解するのに時間がかかるため、個別に声掛けが必要である。文章問題は、説明を聞くと、一人で解くことができるようになってきた。

C 児：ベトナム国籍

日本生まれだが、幼少期にベトナムの祖父母宅に預けられていた。小学校 1 年 11 月に本校に入学した。家庭では、片言のベトナム語と中国語、日本語で生活している。語彙量も多く、日常会話はある程度身についているが、読み書きが苦手で漢字がなかなか定着しない。

算数では、計算が苦手で九九が身についていないので、かけ算やわり算の計算にとても時間がかかる。文章問題は、一人で取り組むことは難しい。一緒に読み、説明をすると取り組むことができる。

(2) 日本語指導にかかる目標

・「順にもどして」という考え方を図を使って説明することができる（イ）

・「順にもどしていくと、100 円たしたのだから、100 円ひくとノート６さつのねだんになります。６さつで 840 円なのだから、1 冊は 140 円です。」

(3) 主な学習活動

①問題場面をとらえる。

・全員で問題を読んだあと、問題場面を動作化して、題意をつかませる。

・考えを整理するために、自分で図に書く。

・教師と一緒に関係図に整理する。
②一人で考える。
・ノート６冊のねだんを出すために、関係図を順にもどしていけばよいことに気付かせる。
③考えを発表する。
・穴あきにしたワークシートに記入させる。
・発表のモデルを提示し、考えを発表させる。
④練習問題をする。

５　評価の観点（※指導案に記載している場合は不要）
※指導案に記載

６　指導内容の概要（※指導案別途添付）

〇3 要素 2 段階（×、＋）の問題を「順にもどして」考える思考法を図を使って説明する。
・問題を一緒に読み、問題場面をとらえる。
・問題を図に整理する。
・自分の考えを友だちに伝え交流する。
・練習問題に取り組む。

７　指導内容・方法において工夫したところ

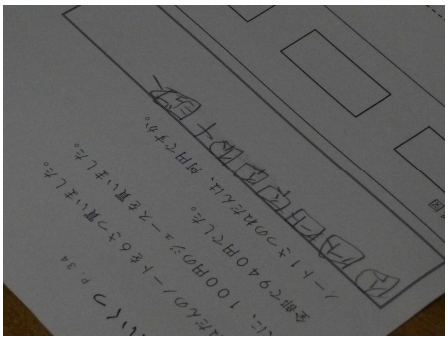
・問題場面を動作化（6 冊買う・次に 100 円のジュースを買う等）して、題意をつかませやすくした。
・児童の考え・わかっていることを整理するために、自分で図にかかせた。
・一緒に関係図に書くことで、時系列で問題を把握させやすくした。また、視覚的にわかりやすいように、数量やはたらきについては、色分けしたカードを提示した。
・「順にもどす」というキーワードは色分けして提示、教師が何度も言うことにより、児童に意識させやすくした。
・「順にもどす」考え方を使った問題になれるために、練習問題を用意した。

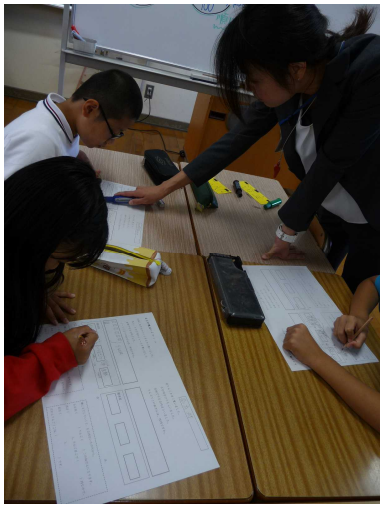
８　教材・教具

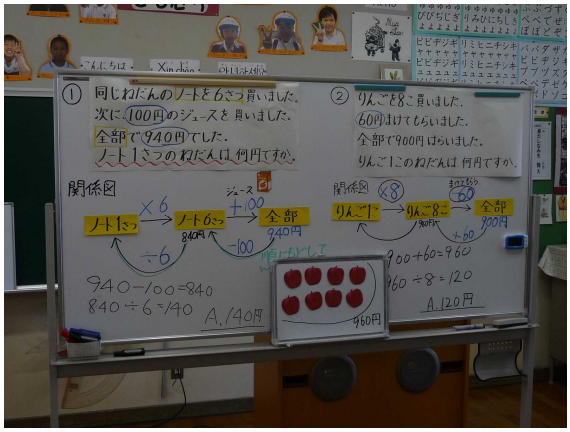
・教科書（啓林館　下）
・ワークシート
・問題に出てくるものの絵

９　活動の様子（写真等）や児童・生徒の感想等

ワークシートには、自分の考えを書けるスペースを設けた。自分の考えがかけたあとは、自分の考えを発表させ、友だちと交流させた。







10　日本語能力測定方法と評価（ＤＬＡの活用）

・日本語習得度確認シートとＤＬＡ採点表を使って（6 月と 1 月）評価を行った。

A 児　6 月　　話す 3 - 18 読む 3－21 書く 2－19 聞く 3－17
A 児　1 月　　話す 3 - 19 読む 3－21 書く 2－21 聞く 3－18

B 児　6 月　　話す 5－26 読む 3－25 書く 4－29 聞く 4－22
B 児　1 月　　話す 5－27 読む 3－27 書く 4－30 聞く 5－23

C 児　6 月　　話す 4－20 読む 1－11 書く 1－11 聞く 4－17
C 児　1 月　　話す 4－22 読む 2－20 書く 2－17 聞く 4－22

日本語能力の測定は、観点が明確であるので、結果を指導につなげることができた。６月の結果から、「書く」の結果が低いことがわかった。そこで、指導の中で「書く」活動を意識して取り入れるようにした。例えば、ワークシートを穴あきにしたり、モデル文や表現の文型を用意したりして、児童が自分で書けるように支援をした。また、文字の指導は授業中に個別に支援をしていった。少しずつ、書くことに対する抵抗が薄れていったように感じている。

11　実践をとおしての成果

・問題を読んで、題意をつかみ、どんな計算になるのか考えることができるようになってきた。
・関係図に表すと、わかりやすくなることがわかった。
・自分の考えを「まず」「次に」「だから」等の言葉を使って、順序立てて発表できるようになってきた。

12　今後の課題

これまでに、児童の実態（何ができるのか、どこでつまずいているのか、苦手なことは何か、家庭環境や言語状況等）を把握することを大切に取り組んできた。その上でどんな授業にしていかなければいけないのか（教科の目標や日本語の目標）を考えて授業を行ってきた。校内研修にも位置づけ、取り出しでの指導だけでなく、在籍学級でも指導を進めていくために、現状を伝えたり、研修や実践に取り組んだりしてきた。その結果、教科指導型日本語指導の考え方が広がってきた。

これからは、取り出し教室での指導法の改善、教室との連携（先行指導や同室指導）、在籍学級での教科指導型日本語指導の実践を進めていきたい。

第４学年　日本語指導（ＪＳＬ算数科）学習指導案

平成３０年１１月６日（火）

姫路市立東小学校

指導者　藤田　容子

１　単元　　「もとの数はいくつ」

２　趣旨

本単元で扱っている問題は、与えられた３つの要素に逆向きに演算を２回施すことによって、答えが得られる３要素２段階の問題である。この問題を解決するに当たっては、問題を時系列で図に整理し、「順にもどして」解決する考え方が必要である。場面に応じて適切な図がかけることは、問題解決の際の思考法を決定していく上で重要なことである。図を思考の道具として使うだけでなく、自分の考えた過程を相手に伝えるための説明の道具として有効であると実感させるのに適している。「順にもどして」の思考法は、目的の前段階となる要素や条件を考えながら、目的から条件に向かって逆向きに「順にもどして」考えていく方法である。本単元は、この思考法を身につけることをねらいとしている。この学習は、５年生「同じものに目をつけて」の学習で、同じものを差し引いて考えたり置き換えて考えたりして問題を解く学習へとつながっていく。

これまでに児童は、３年生の「かくれた数はいくつ（１）」の単元において、加法の順思考と減法の逆思考を組み合わせた問題を学習してきている。また、「かくれた数はいくつ（２）」においては、除法や乗法の逆思考の問題を学習した。２つの数や量の関係を図にかいて、問題を整理することや言葉の式を手掛かりにすることで問題の解き方を学んできた。

この学習について事前に調査を行った。

①あめを買います。同じあめを７こ買うと、35 円になります。あめ１このねだんは何円ですか。
②色紙を一人に６まいずつ配ります。子どもぜんいんに配ると、４８まいいります。子どもはみんなで何人ですか。

調査の方法は、１回目は支援なし、２回目は解説後、もう一度支援なしで取り組んだ。

児童は、在籍学級の国語と算数の時間にワールドルームで取り出し指導を行っている。児童の実態と調査の結果は以下の通りである。

<table>
<tr><th></th><th>在日期間と家庭での生活言語</th><th>日本語習得状況</th><th>当該教科に関する力</th></tr>
<tr><td rowspan="2">K</td><td>【ベトナム国籍】
・日本生まれ
・長期帰国あり
・１年生の１１月に本校入学
・家庭では、父とは片言の日本語とベトナム語、母とは片言の日本語と中国語を使い生活している。</td><td>日本語習得度確認シート（６月）
話　４－２０　読　１－１１
書　１－１１　聴　４－１７
・日常会話はある程度身についている。語彙量も多い。
・教科語彙に乏しい。
・学習において漢字を使うことが少ない。</td><td>・一人で集中して取り組むことができない。個別の声掛けが必要である。
・学習習慣がなく、学習内容が定着していない。
・計算が苦手で、かけ算を覚えていないので、わり算は時間がかかる。
・文章問題は、一人で取り組むことは難しい。一緒に問題を読み、説明をして、解くことができる。</td></tr>
<tr><td colspan="3">○調査の結果
・１回目、関係図は、ほとんど何も書くことができなかった。式も、書くことができなかった。
・２回目、関係図は、言葉や数字を書き込むことができた。式は、①は書けなかった。②で 48÷6＝8 と立式するところを、6÷48＝8 としていた。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">T</td><td>【ベトナム国籍】
・日本生まれ
・家庭では日本語とベトナム語を使い生活している。</td><td>日本語習得度確認シート（６月）
話　３－１８　読　３－２１
書　２－１９　聴　３－１７
・日常会話や学習のときに使う日本語は、よく理解しているが、日本語で自分の考えや思いを表現することは、難しい。</td><td>・家庭学習の習慣があり、学習に対して意欲があるが、理解するのに時間がかかり、一斉指導では、指示が入らない。
・四則計算はしっかりと定着している。
・文章問題や応用問題は、説明をすると、一人で解くことができるようになってきた。</td></tr>
<tr><td colspan="3">○調査の結果
・１回目、関係図は、文章から数字を書き込むことはできたが、言葉は書くことができなかった。式は、①は書くことができなかった。②では、48×6＝288 と計算していた。
・２回目、関係図は完成することができた。式は、２問とも正しい式で答えを出すことができた。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">T</td><td>【ベトナム国籍】
・日本生まれ
・長期帰国あり
・小学校入学約１年前に日本へ帰国
・家庭では、ベトナム語を使い生活している。５年生の兄とは日本語で会話をしている。</td><td>日本語習得度確認シート（６月）
話　５－２６　読　３－２５
書　４－２９　聴　４－２２
・日常会話や読み書きはある程度身についているが、語彙量が少ない。
・話し方が速かったり、難しい言葉を使ったりしていると、理解ができない。</td><td>・学習に対して前向きに取り組んでおり、学習言語も身についてきている。
・四則計算は定着している。
・文章問題は、文章の言葉の意味がわからず、つまずくことがある。説明をすると、一人で解くことができる。</td></tr>
<tr><td colspan="3">○調査の結果
・１回目、関係図は完成することができた。式は、①では□×7＝35 から考え、35÷5＝7 と正しく</td></tr>
</table>

	答えを出すことができた。 ・2回目、関係図は完成することができた。式は、①は1回目と同様正解することができた。②は、6＋□＝48と立式した。

指導にあたっては、まず問題文を読み、題意をつかませる。その際、絵を提示したり児童に動作化させたりして、児童が時系列で数量の関係を理解できるようにする。次に、「順にもどして」の考え方を理解させるために、図に整理させる。図への整理のさせ方については、まずは3つの数量を抜き出し、時系列に沿って、どのように変わっていくかを矢印を使って書くようにする。また、書き出した数量間の関係について、どのようなはたらきが加わったか（どのような演算が施されたか）を矢印の上に書き加えさせる。図へ整理するときは、ワークシートを使って、一緒に図を完成させるようにする。そして、図を使い、順にもどしていけば、答えを求めることができることに気付かせる。その際、キーワードを提示し、苦手な児童でも説明できるようにする。また、声に出して説明することで、図と式・言葉・数字がどこに結びついているかを意識させたい。その後、演習問題を解くことで、計算方法と説明のしかたの定着を図るようにする。図と式の確認後、計算方法について児童全員が説明できるようにする。

3　単元どうしのつながり

学年	3　年	
単元名	かくれた数はいくつ（1） 加法の順思考と減法の逆思考を組み合わせた問題	かくれた数はいくつ（2） 乗法の逆思考の問題

↓

学年	4　年
単元名	もとの数はいくつ（本単元） 順にもどして考える問題

↓

学年	5　年
単元名	同じものに目をつけて 相殺の考え方を使った問題

4　指導計画（全２時間）

第１時　３要素２段階の問題を「順にもどして」考えていく方法で解決する。（□×a＋b＝c）

第２時　数量の関係を関係図に表し、「順にもどして」考える思考法で問題解決する。（□÷a＋b）

5　単元目標

・「順にもどして」考えることに関心を持ち、進んで問題に取り組もうとしている（関心・意欲・態度）

・３要素２段階の問題を時系列で図に整理し「順にもどして」解決することができる。

（数学的な考え方）

・３要素２段階の問題を図に整理し、問題の解決にいかすことができる。（技能）

・「順にもどして」考えて解く方法を理解している。（知識・理解）

単元の指導計画・評価計画（全２時間）

時	児童の学習内容・活動	指導上の留意点	◇おもな評価・**大切な言葉**
1	・３要素２段階の問題を「順にもどして」考えていく方法で解決する。 ・問題を時系列で整理する。（関係図に表わす） ・「順にもどして」考える計算方法を説明する。	・問題を動作化し、時系列をつかませる。そこから３つの数量を抜き出し、ワークシートを使用し、関係図に整理させる。 ・キーワードを提示し、関係図を使って、計算方法を説明させる。	◇（思考）図をもとに、「順にもどして」考えることができる。（発言・ノート） **関係図・「順にもどして」** **「順にもどして」いくと、100円たしたのだから、100円ひくとノート６さつのねだんになり８４０円、ノート６さつが８４０円だから、１さつは140円です。**
2	・数量の関係を関係図に表し、「順にもどして」考える思考法で問題解決する。	・関係図に整理させるために、３つの量とその関係をおさえる。 ・前時と違った問題でも「順にもどして」考えると解けることに気付かせる。	◇（思考）問題文に即して数量の関係を図に表わし、「順にもどして」考えて解決することができる。（発言・ノート） **「順にもどして」いくと、６こたしたのだから、６ひくと一人分のいちごの数になります。一人分は９こ、５人なので、買ってきたいちごは９×５＝４５、４５こです。**

6　本時の目標（第１時）

（１）目標

3 要素 2 段階（×、＋）の問題を「順にもどして」考える思考法を図を使って説明することができる。

（２）日本語の目標

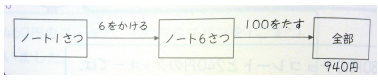
「順にもどして」という考え方を図を使って説明することができる（イ）

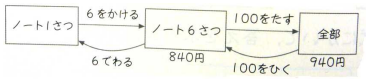
「順にもどしていくと、１００円たしたのだから、100 円ひくとノート６さつのねだんになります。６さつで 840 円なのだから、1 冊は 140 円です。」

ターゲットセンテンス

・うしろから「順にもどして」考えましょう。

（３）本時の展開

学習活動	指導上の留意点　★評価	備考
１．本時の問題場面をとらえる。 **同じねだんのノートを６さつ買いました。次に 100 円のジュースを買いました。全部で９４０円でした。ノート１さつのねだんは何円ですか。**	・全員で問題を読んだ後、「６さつ買う」「次に１００円のジュースを買う」という行為を動作化しながら題意をつかませるようにする。（理） ・わかっていることと、尋ねていることを発表させ、何を求めればいいのかを確認する。	絵 ワークシート①
２．問題を図に整理する。 ・自分で考える ・関係図に整理する  	・考えを整理するために、動作化した問題場面を自分で図に書かせる。 ・数量の関係を明確にするため、関係図に整理できるようにする。 ・時系列順に□に３つの量を書きこみ、どのようなはたらき（計算）が加わったか【ノートの６さつ分は（×６）、１００円のジュースを買うことは（＋１００）】を矢印の部分に書き込ませる（理） ・関係図の３つの数量やはたらきについては、視覚的にわかりやすいように色分けして提示をしておく。（理）	
ノートの６さつのねだんは、どのようにするとわかりますか。		
	・「順にもどして」の考え方を意識させるために、後ろから→を示し、６さつのねだんを求めるためには１００円ひけばよいことに気付かせる。	

３．自分で考える。  	ノートは１さつ何円ですか。 ・ノート６さつからノート１さつへの逆向きの矢印も空欄にしておき、「順にもどして」いけば、答えを求めることができることに気付かせる。 ・１さつのねだんを求めることに戸惑う児童には、ノート６さつの絵の操作を手掛かりにして、６でわればよいことに気付かせる。	
４．考えを発表する。	・「順にもどしていくと、１００円たしたのだから、100 円ひくとノート６さつのねだんになります。940－100＝840、6 さつで 840 円なのだから、840÷6＝140、1 冊は 140 円です。」のように説明できるように、キーワードを色分けして提示しておく。（表） ・一人ひとりが説明できるように、説明も書きこませ、それぞれの式の意味を結び付けることができるようにする。（記） ★（考）図をもとに、「順にもどして」解決することができる（ワークシート・発言）	
５．問題②をする。 **りんごを８こ買いました。６０円まけてもらって、９００円はらいました。りんごは、１こ何円でしたか。**	・問題文の「りんごを８こ買う」「６０円まけてもらう」行為を動作化しながら題意をつかませる。 ・関係図は、枠を作っておき、関係図をかくことに慣れるようにする。	ワークシート②
６．練習問題をする。	・「順にもどして」考える問題を練習させることで定着をはかる。（記） ★（知・技）問題を図に整理して「順にもどして」考えて解く方法を理解している。（ワークシート）	
７．今日の学習の振り返りをする。	・本時の学習でわかったことを確認し、次時の学習へつなげる。	